会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業  （２）教職員の資質能力向上の推進　①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回全国職業教育協議会 |
| 開催日時 | 令和5年10月27日（金）13:00～15:00 |
| 場所 | オンライン |
| 出席者 | 事業責任者：林　宏治　　　　　　　　　　　　　　　　計1名  委　　　員：岡村　慎一、成底　敏、五十部　昌克、木村　隆浩  泉田　優、鈴木　弘明　　　　　　　　　　計6名  協会事務局：斎藤　昭雄　　　　　　　　　　　　　　　計1名  請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　計1名  オブザーバ：足立　隆　　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計10名 |
| 議題等 | 1.前回までの振り返り（林）  2.各事業の進捗報告  〇事業推進委員会進捗報告（五十部）  ・アンケート調査については300件を超えるご回答をいただき終了している。  ・ヒアリング調査は、現状8校、1団体の調整が済んでいる。  ・中期計画および自己点検についてのヒアリングを実施している。  ・現在は9か所程度で実施しているが、今後12月にかけて5か所程度増やす予定である。  ----------------意見交換  ・ご説明の2つの調査に加えて、学校評価調査を加味して行うと聞いているがどのようにするのか？（飯塚）  ・現在行っているヒアリングに質問事項を付け加えて、学校評価も同時進行で実施する。（五十部）  〇教職員研修関係事業（成底）  ・ガントチャートに則り、成底リーダーから説明。  ・教員概論に関しては、7か所のヒアリングを予定しており、現状で2か所を終了している。11月中を目途にすべてのヒアリングを終了する予定である。  ・授業改善に関しては、11月10日に福岡で行われる3回を1講座として実施する。定員が満杯になっている。  ・産学連携については、アンケート調査が終了し、ヒアリング段階となっている。今後、ヒアリング3か所を予定している。  ------------------意見交換  ・進捗の遅れはあるのか？（林）  ・現状は、オンスケジュールと見ている。（成底）  〇研修実施委員会（泉田）  ・本年度は4種類のセミナーを実施する。  ・FD・SDセミナーに関しては、東京と福岡にて実施する。  ・両会場ともに申し込みは満席となっている。  ・テーマや講師については、お手元の資料をご参照ください。  ・現在企画しているのは、職業教育のマネジメントセミナー、自己点検・評価関連セミナーを東京と福岡にて1月中・下旬をめどに実施予定。また、このセミナーに関してはオンラインでの実施も予定している。  ・後半のセミナーについては、12月頃に実施している。  --------------------意見交換  ・日程の修正をお願いします。福岡のFD・SDは、11月ではなく10月に修正してください。（成底）  〇土産等の出費については、どのようにすればよいか意見をお願いします。（林）  ・土産については、全専研側として負担すべき。（木村）  ・全専研がわで負担するべき。（鈴木）  ・事業としていくのであれば、事業費として出した方が良いのではないか。（成底）  ・土産は必要ない。（泉田）  ・可能であれば、全専研の負担にしていただきたい。（五十部）  ・事務処理としてどのようにすればよいのかが明確になればよいと思います。（岡村）  ・内規でルールが決まればよいと思う。（五十部）  ・1年間のトータルを林にて算出して理事会と調整する。（林）  〇文科省委託事業の問題点と解決方法（林）  ・文科省事業の体制について今後どのようにしていくのか意見を求める。（林）  ・マンパワーが一番お課題。全専研として教職員がいない。ここが問題である。大きな学校に偏っているのも問題だと思う。（岡村）  ・全専研として文科省事業を理事の方々がやっていきたいと思っているのかが確認する必要がある。（成底）  ・今年からなので状況はよくわからないが、、、委員の負担が大きすぎる気がする。（鈴木）  ・当校の中で、学校のしい命令系統の中に全専研が位置づいていないことが負担である。学校業務以外の仕事として実施しなければならない状況である。（五十部）  ・委員長の役割が大きいと思うが、委員として活動していると学校の運営などに役立つ情報もある。（泉田）  ・私も今年からなので見えてないが、人材不足の中で追加での仕事というのはかなり難しい。この事業を続けていくためには、周りを引き込む必要がある。（木村）  ・この協議会が文科省事業をコントロールしていくという認識である。岡村先生への負担が多すぎるので、この協議会で負担を分担できれば良いと思う。（成底）  〇第3回協議会日程は、12月15日（金）時間は追って決定する。（林） |
| 配布資料 |  |

以上